

生きがい通信

愛称：ドリーム

No.19 R 8.1

シルバー人材センター

(文責：奥田)

◎あけましておめでとうございます

会員の皆様はじめご家族一同にとりまして、健康で穏やかな一年となりますよう心からご祈念申し上げます。

昨年は大変な猛暑の中でしたが、就業いただいた会員の皆様のおかげで、当センターが順調に運営できましたことに心から感謝申し上げます。世相的には、米騒動というような一時スーパー等の店頭からコメが消えてしまった時期もあり、政府でも備蓄米を緊急放出する騒ぎとなりました。このところ品物こそ不自由なく買えるようになりましたが、値段は高止まりしたままです。物価高は今年も続きそうで、当センターでも、これまで配分金の 10%を事務費としていただいていたのですが、これを上げざるを得ない状況にきています。依頼者の理解をいただきながら、安くて丁寧な仕事をモットーに事業を遂行できればと考えています。



そのような中で、就業していただく会員数を確保することが喫緊の課題となっております。1月7日現在 214 名の会員数ですが、毎年度末には、病気や高齢を理由に退会する方が多数出る傾向にありますので、200 名をわってしまう事態も考えられます。

そこで、1月から3月の新規入会者は、今年度の年会費 2,000 円を免除するキャンペーンを行っています。是非会員の皆様のお知り合い等にお声がけいただき会員拡大にご協力をいただければと思います。

つれづれの記

① (昔の思い出・その2)

教職経験 10 年目に坂戸の中学校に異動になり、北坂戸中に 6 年、泉中に 3 年勤務した。この両校は、現在は統合され泉中を使用して桜中となっている。この 9 年間は、夢のような川越時代と反対に、ややオーバーな言い方をすれば地獄のような時代であった。昭和 50 年代半ばであったが、生徒急増期で、北坂戸中も学年 10 クラスとなり、校舎が足りなく校庭にプレハブを建ててしのいだ。このような状態に呼応するように全国的に校内暴力のあらしが吹き荒れた時代で、廊下を自転車で走るとか、3 階・4 階から物が投げられるというような学校も珍しくなかった。勤務校もご多分に漏れず、私も自家用車のガラスを割られたり、竹刀を振り上げられたこともあるような日々で学校に行くのがつらい毎日であった。

一方、そのような荒れた生活を送っていた生徒たちも卒業式には涙して卒業していくということも度々で、それまでの苦労が一気に吹き飛び、教師になってよかったと思う瞬間でもあった。つづく